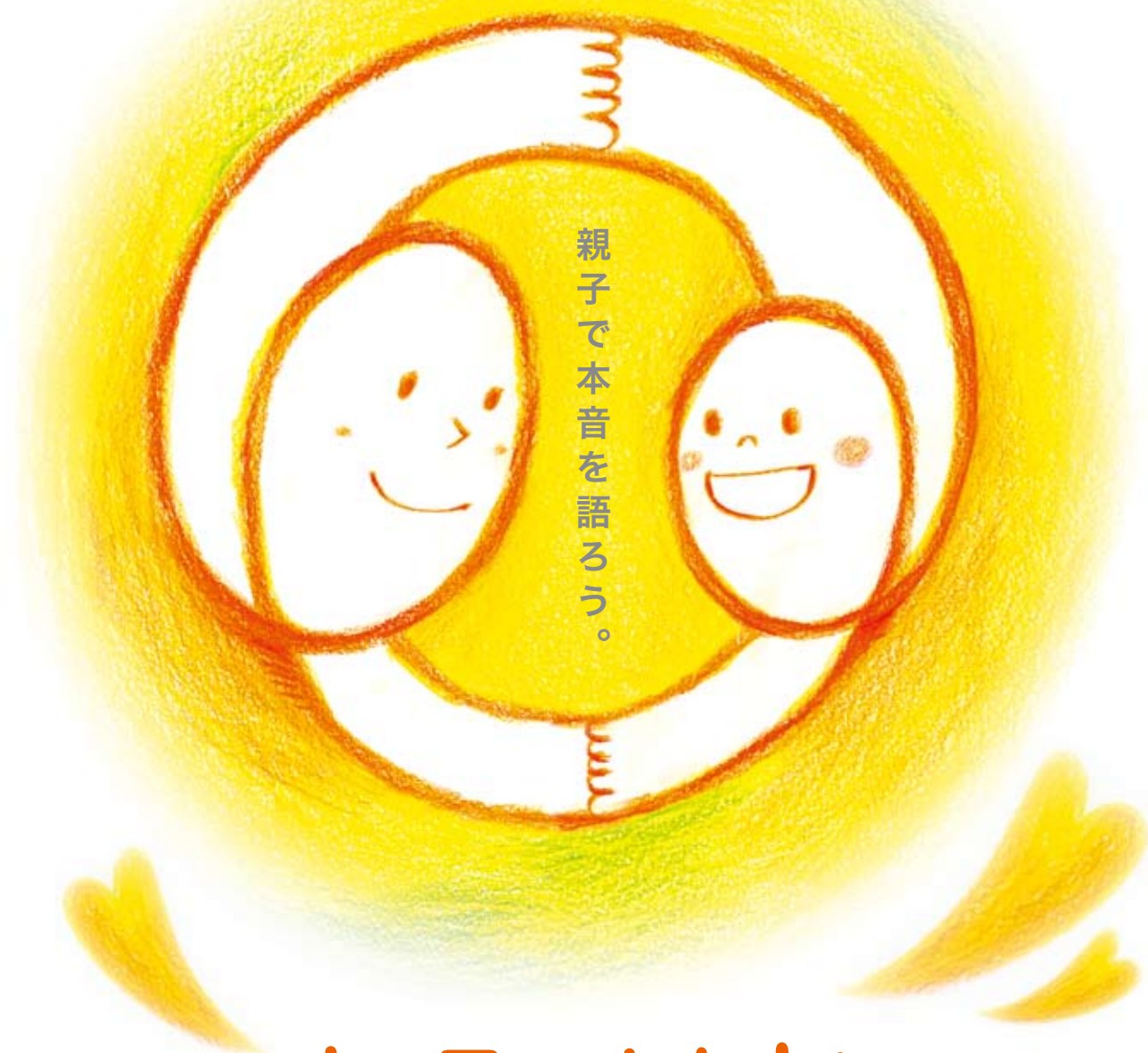


大切なあなたたちへ…



親子で本音を語ろう。

大切にしよう!
わたしのこころ・からだ・生き方

(財)松山市男女共同参画推進財団

1. 子どもたちの現状 ～中学生アンケート調査より～

子どもたちの自尊感情をはくむことの重要性が、教育の様々な分野で言われています。

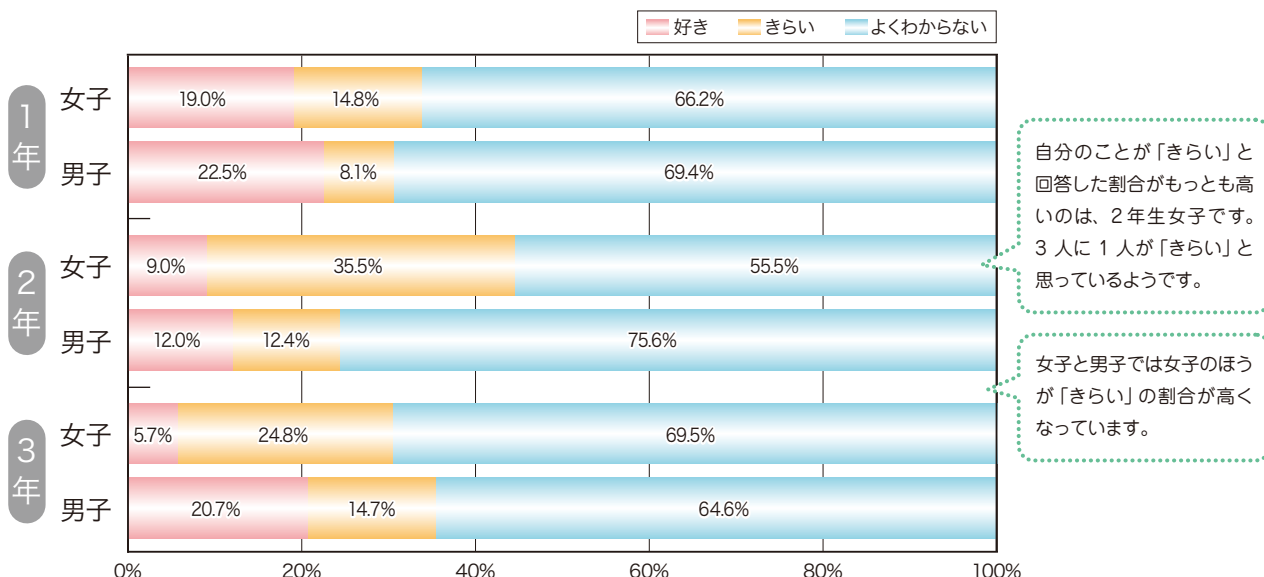
その背景には、子どもたちが自分に自信を持たず、自分が価値ある存在であると感じることができない、さらに人間関係も希薄であるという現状があります。

国際比較調査でも、日本の子どもたちの自尊感情の低さが指摘されています。

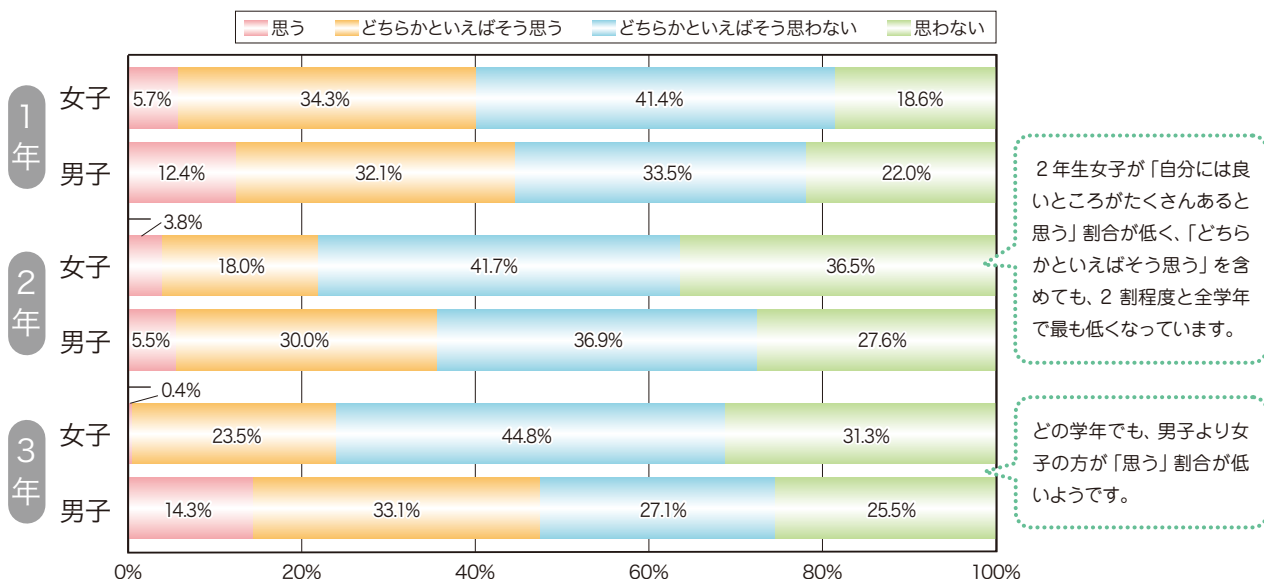
そこで平成 19 年 11 月に、子どもたちが自分をかけがえのない存在として認め、自分自身を好きだと思ふ気持ちを持っているか、さらに、望ましい人間関係を築いているかについてアンケートを実施しました。対象は、松山市内の中学校（5 校）の 1 年生から 3 年生の男女 1328 名です。（女子：651 名 男子：677 名）その一部を紹介します。

（注）自尊感情とは自分に対する評価感情のことで、自分自身を基本的に価値あるものとする感覚のことで、

あなたは、自分のことが好きですか。



あなたは、「自分には良いところがたくさんある」と思いますか。

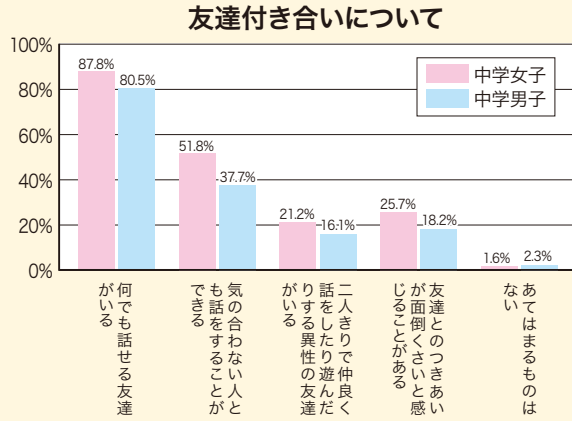


全国データ

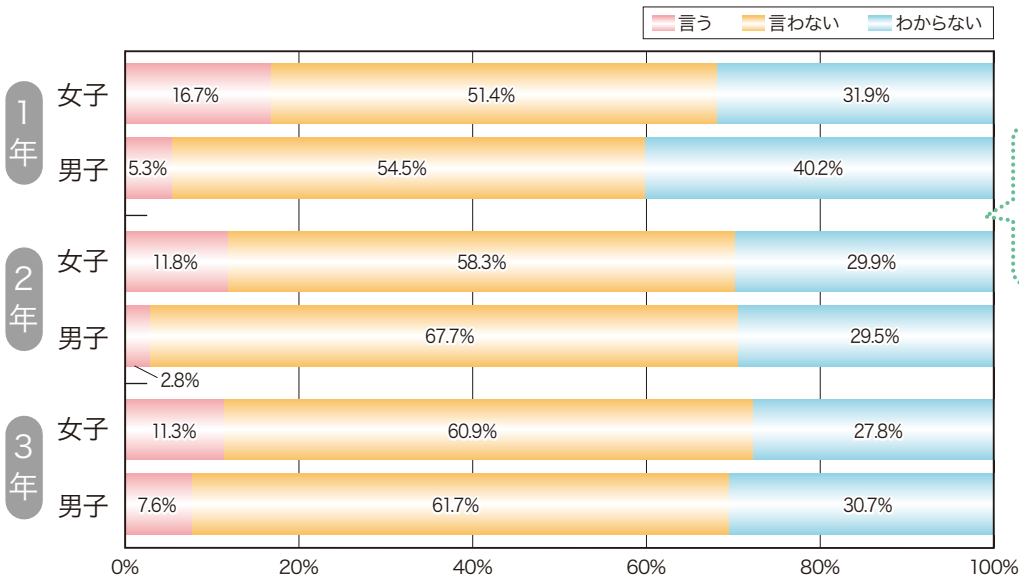
今や、異性の友達は当たり前!?

友達付き合いについて、平成18年3月に内閣府が行った調査では、「二人きりで仲良く話をしたり遊んだりする異性の友達がいる」と回答した中学生の割合は18.6%、性別で見ると女子21.2%、男子16.1%となっています。松山でも、今回のアンケートで、半数以上の中学生が、「よく話をする異性の友達がいる」と答えています。

参考:「低年齢少年の生活と意識に関する調査」(内閣府)

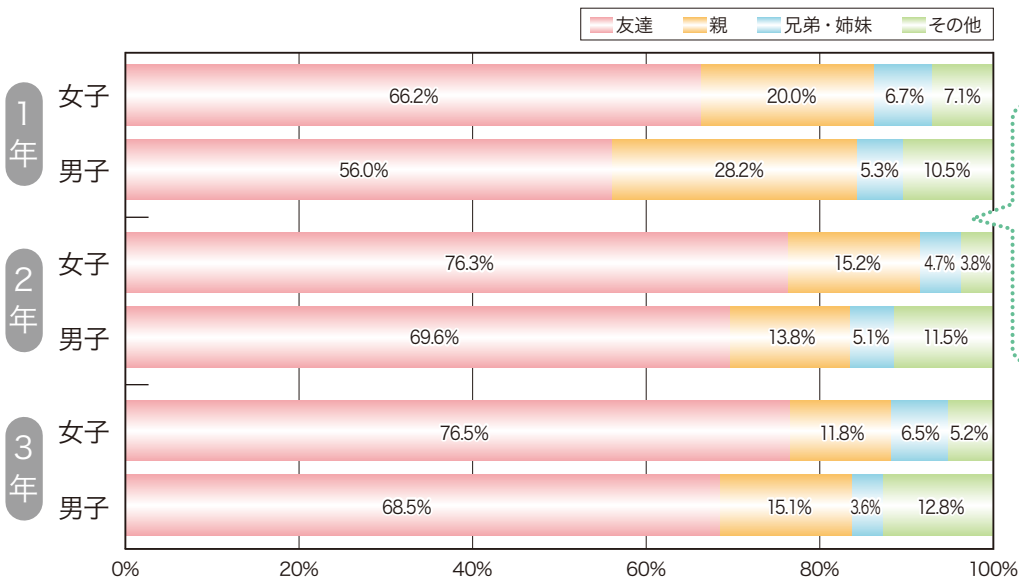


あなたは、異性の友達ができたら親に言いますか。



どの学年も半数以上の中学生が「親には言わない」と回答しています。男女の差はあまりないようです。

あなたが困った時に、まず相談するのはだれですか。



相談相手は圧倒的に「友達」です。学年があがるにつれて全体的には「親」の割合は低くなるようです。「その他」としては「(学校・塾の)先生」「先輩」があげられています。

2. 座談会「子どもに伝えたい親の気持ち」

アンケートをもとに中学生の保護者6名の方に“親の気持ち”を語っていただきました。(女性3名、男性3名)
コーディネーターは、松山市教育支援センター・臨床心理士の柴田智恵さんです。

コーディネーター：まず、子どもたちがどのくらい自分のことを大切に思っているかを見たいと思います。

「あなたは、自分のことが好きですか。」では、2年生になると男女とも「好き」という割合がぐっと減ります。特に、2年生の女子では「きらい」という割合がとても高く、35.5%にもなります。

「あなたは、『自分には良いところがたくさんある』と思いますか。」では、学年が上がるにつれ、「思わない」という割合が高くなります。また、性別で見ると、女子の方が男子より「思わない」という割合が高く、2年生女子では36.5%になります。

また、「得意なこと」を聞くと、最も多かったのは各学年とも「スポーツ」でしたが、あえて「なし」と否定的に回答した子どもがかなりいます。1年生では10%程度ですが、3年生になると約20%になります。

こうして見ると、子どもたちの自尊感情はあまり高くなく、中でも2年生女子の低さが目立ちます。この結果を見て、みなさんどのような感想をお持ちですか。



うちには2年生の息子がいます。息子を見てみると、男の子は友達と表面上は上手く付き合えるようです。だから自分のことが好きなのかもしれません。でも女子は中学生の頃は友達関係も複雑そうです。いろいろな友達があって、傷ついたり悩んだりしているようです。だから自分のことが好きかと問われたら、「わからない」と答える女子が多いのではないのでしょうか。



3年生の娘に「自分のこと好き？」と聞いたら、「好き」と答えました。友達も多いのですが、2年生から3年生の1学期までは、友達関係に悩んでいたようで、泣いたりもしていました。一方、1年生の息子は、友達関係

がうまくいっているようです。

コーディネーター：女子と男子では、友達関係に違いがあるのでしょうか。



我が家にも3年生の娘がいます。「自分のことが好きですか?」「自分には良いところがありますか?」と聞かれると、女子は「好き」と答える子は少ないのではなかったら、やはりそういう結果でした。また、案の定、「自分に良いところがあると思わない」という答えも多かったです。娘に関して言うと、自分では良いところはたくさんあると思っているとは思いますが、アンケートではそう答えていない気がします。娘も2年生のときに、友達関係がうまくいかない時があって、学校を休ませてくれと泣いたりしたことがありました。女子は2年生の頃に何かあるのではないのでしょうか。その数字がここに出ている気がします。

コーディネーター：次に子どもたちの学校での友達関係と親子のコミュニケーションを見たいと思います。

「あなたにとって、いま、学校の友達関係はどうですか。」という設問には大多数の生徒が「楽しい」と回答していますが、それでも「どちらともいえない」「楽しくない」が全学年の中でもっとも多いのがやはり2年生です。

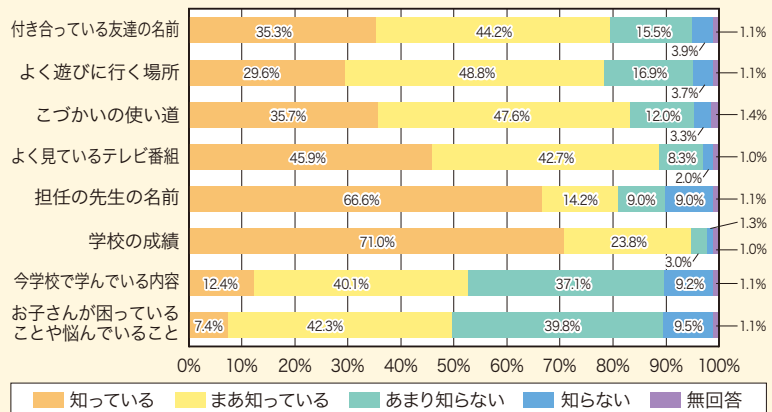


全国データ

子どものこと、知っていますか？

小中学生の親に、子どものことをどのくらい知っているかをたずねたところ、「担任の先生の名前」や「学校の成績」は約7割の親が「知っている」と答えています。一方、「子どもが困っていること・悩んでいること」を「知っている」と答えた親は1割程度です。参考：「低年齢少年の生活と意識に関する調査」（内閣府）

子どもにかかわることの認知度



また、同性の友達とはどの学年でも友好的関係が結べているようです。異性の友達になると、多少変わってくるようです。

「あなたは、異性の友達ができたら親に言いますか。」という設問では、どの学年でも「言わない」「わからない」という回答が多くなります。また、男子より女子の方が親に「言う」割合が高く、特に2年生男子では「言う」と回答した割合は非常に低くなっています。この頃から、発達段階において親と距離を取り始めるのがわかります。

さらに「あなたが困った時に、まず相談するのはだれですか。」では、どの学年でも「友達」という回答が圧倒的です。次いで、「親」となり、1年生ではまだまだ「親」に相談が多く、親の助けを必要としているのがわかります。ところが2年生男子になると「親」に相談するのは、1年生男子の半分以下になります。このあたりは、みなさんいかがですか。



娘は、友達はたくさんいると言っていて、男子ともよく話すと言っていたので思っていた通りの結果です。いざ相談になると親には一番には来ないだろうと思っていましたが、やはり寂しいです。親としては一番に相談に来てほしいです。



自分が十代のときも親には相談せず、友達同士で相談していました。これは変わらないですね。



うちの息子は2年生ですが、1年生の時は、学校であったことをすべてしゃべっていたのが、2年生になると一気に口数が減りました。思春期だからしょうがないかなと思っています。友達関係は、女子の友達も家に遊びに来たりするので、息子から話すというよりは、こちらから聞いていくかたちです。私たちが中学校の頃は、そんなに男女の仲は良くなかったですが、今の子どもたちを見ていると、とても男女の仲がいいように思います。

コーディネーター：子どもたちは、男女の仲をあまり意識していないのでしょうか。



私たちの頃は意識していたように思います。男子の家に遊びに行ったりすることはなかったですが、最近は、女子も積極的に遊びに来ます。



1年生から2年生、3年生とだんだん口数が減って当たり前ではないでしょうか。親にべらべらしゃべったら、かえって気持ちが悪いと思います。良い友達を見つけたら自分のプラスになるし、何もかも親に話されたら、それは子ども自身の意思がないと思います。これは親に話さなくてもいいことだと、自分で判断してくれた方が親としては安心です。親も子どもと話したかったら自分から話しかければよいのではないのでしょうか。

コーディネーター：そうですね。アンケート結果は、子どもの成長過程でむしろ安心して見ていただける結果ですね。



うちは一番下が中2の息子で、一番上とは10歳離れています。息子はいまだに親に相談をしてくれるので、安心していきます。息子に、兄や姉には相談しないのかと聞いたら、しないということでした。子どもの中では順序立てができています。



私たち母親は、自分の子どもを中心とした狭い世界を見てしまいがちですが、お話を聞いていると、父親は広い視野で学校全体や部活動全体を見ておられるんですね。両方の役割がきちりできていたら、子どもたちは素直に育つのではないのでしょうか。

コーディネーター：中学生の時期は、小学校からのギャップがあり、いろいろな問題も出てくるので、親の役割は、つかず離れずというのが大切だと思います。

最後に、この機会に子どもたちに伝えたいことがあれば、お願いします。



しっかりした目標を持って進んで欲しいです。



たくさんあるのですが、生きていく力や目標を持ってほしいと思います。私はあなたのことを思っている、地域の人もあなたのことを思っているということを伝えたいです。一人じゃないということをわかってほしい。一人で何でも抱え込まないでほしい。どうしてもだめな時は、そばに誰かいることをわかってほしいと思います。

コーディネーター：中学生の時期は親も子どもも揺れやすい時期ですが、子どもの存在をちゃんと認め、子どもの自発的な意欲が発揮できるように見守ることが親の役割となってくると思います。本日は貴重なご意見を出していただき、ありがとうございました。

コーディネーター・ 柴田智恵さんからのメッセージ

中学生の時期を一言で言うと、『大人への入り口』と言えるでしょう。身体は急に成長し、なんだか気持ちはすっきりしない、勉強はどんどん難しくなり、子どもたちは小学生の頃とは何かちがった感じを持つようになります。

親や先生たち大人が何となく「うっとうしい」と思えたり、自分の気持ちをわかってもらえなくていらいらしたりします。また、友達から言われたことがとても気になったり、自分が友達からどんなに見られているだろうとか、嫌われたくないからといって友達に無理に合わせたりします。それは子どもたちが大人になっていく助走期間の第一歩として、身近な大人から少しずつ離れてひとり立ちの準備をする時期になっているからです。子どもたちが大人に近づいていく時期に、自尊感情は非常に重要なエネルギーとなります。自尊感情が育つことにより、自分も相手も尊重でき、心豊かな大人になることができるのです。

私たち大人が、子どもたちの発達をきちんと理解し、子どもたちが育つ環境に配慮し、自尊感情が育つようにしっかりと子どもたちを認め、小さな変化に気づきつつ温かい目で見守ることは、成長する子どもたちへの何よりのエールになると思います。



3. 思春期をどう支援するか! ~自尊感情・エンパワー・暴力の視点から~

子どものこころのケア活動や、学びと人間形成についての実践と理論化に取り組んでいる HEAL ホリスティック教育実践研究所・所長の^{きむかゆり}金香百合さんからのアドバイスです。(引用『金香百合の自尊感情栄養理論・暴力理論』から)

自尊感情って何?

自尊感情は人とのつながりの中で、自分と他者を両方とも大切にす自他尊重の感情です。自己中心感情とは区別が必要です。自尊感情が高い時の傾向は①私 OK、あなた OK、の対等な人間関係を気持ちよく作りやすい②基本的信頼感をもてる③前向き、プラス思考④変化に強く、変化を信じ、変化をつくりだす⑤違いに寛容⑥偏見や差別が少なく、合理的⑦性別による固定的役割分担へのとらわれが少ない⑧あるがままの自他を受容し、学力やささまざまな能力が発揮されやすい。自尊感情が高まると人間の善性が引き出されます。

●自尊感情を高めるからだの栄養・こころの栄養

自尊感情にはからだの栄養とこころの栄養が必要です。
からだの栄養は主に3つ、適切に①食べる②ねむる③動くこと、です。どれも現代人の毎日では大事にされなくなっていますが、本来生きることの基本でもありました。こころの栄養は①安心・安全と感じられる②大切にしてもらう③関心をもたれる④聴いてもらう⑤認められる⑥ほめられる⑦信頼される⑧感謝される⑨あるがままに受け入れられる⑩笑顔で接してもらう、です。こういうものをまわりの人からもらっていると栄養が満ち足りて、自尊感情が高くなります。子ども時代はまず親からしっかりと栄養をもらい、思春期になると友達関係での栄養の循環が多くなります。



<からだこころの栄養>*1

●エンパワーする人間関係

ふたつの栄養が足りていると人間はエンパワーします。エンパワーとは、人間に内在するさまざまな可能性が、人や社会とのつながりの中で、次々と芽生え、花咲いている状態です。パワーが内から湧いてでる状態ともいえます。



<エンパワーする人間関係>*2

●自尊感情が低くなると暴力がでる

一方で栄養が不足し、自尊感情が低くなると暴力がでてきます。
暴力は①人に向かうもの・なぐる・ける・言葉の暴力・無視・仲間はずれ・性暴力・デートDVなど②自分に向かうもの・自傷行為・たばこやギャンブルや薬物の依存症・ケータイ依存・抑うつ・自殺など
暴力は、見過ごすと弱いほうに連鎖していく傾向があります。早期発見・早期手当てによって、改善解決をはかりたいものです。思春期は自尊感情が低くなる時期でもあります。思春期までに親と子の信頼関係をしっかりとつくるのが大事です。保護者は、思春期の子どもが友人たちと、自他を肯定する交友関係をつくっていけるように、見守りつつ、支援したいものです。



<自分に向く暴力・人に向く暴力>*3

[*図1・2・3: 金香百合の自尊感情理論より]

「子どもに伝えたい、親の気持ち」

メッセージコンテスト入賞作品



平成19年11月に、中学生の保護者を対象にメッセージを募集しました。入賞作品の一部を紹介します。

娘へ

あなたが元気に育ちますように。あなたのがんばりが実を結びますように。自分の進むべき道が見つかりますように。いつも充実した心でいられますように。望みはきりがないけれど、あなたが笑顔でいられますように。これが、母の一番の願いです。

三歳から十年間、ダニやハウスダストに敏感なアトピーになったね。夏でも長袖に手袋をし、親子で夜も眠れず、かゆみと闘い、いつか治ると信じて辛い治療にも耐えたね。あの時は、かきむしってひどくならないように、怒りもしたね。代われるものなら代わってやりたいと涙もあふれたよ。一日三回の掃除と毎日の布巾干し、一週間毎のカーテンの洗濯、母親に出来る最大の努力もしました。

そして、見事克服。人の痛みのわかる、最後までやり通す強い意志の持ち主になってきたね。あなたらしい視点で物事を見つめ、伸び伸びと羽ばたいてください。応援しています。

(中一女子の母)



元気がいちばん

娘が生まれた時、ただただ無事に生まれてきてくれたことに感謝した。あれから十四年…。人間とは欲張りなもので、「顔はかわいい方がいい」だとか「もう少し勉強ができれば」だとか、自分の遺伝子のことは棚上げして、子どもに無茶な要求ばかりしている。

その娘が、今、学校で「自分史」なる物を作っているらしく、先日、こんなことを聞いてきた。「お母さん、これからの私へメッセージってない？」

しばらく考えて、私が出した答えは、「うん、これからも元気で、親より先には死なないでってことかな」

そうなのだ！結局はこれにつきるのだ！欲を言ったらきりがない。娘が生まれた時から、ずっと私が思い続けていること。

「Kちゃん、とにかく元気でいてね。そして、これからもいっぱい親子げんかしようね」

(中三女子の母)



わが子へ

中学生になった君たち二人に毎度、毎回、毎日小言を言うのは、言われる君たちも腹が立つと思うけれど、言う側の親もしんどいんだよ。

幼稚園の頃、「天国に行った金魚ちゃんたちはお空を泳いでいるの」と聞いてきた娘。

幼稚園の頃、「大きくなったらお母さんに買ってあげるんだ」と言いながら、宝石屋さんの子ラシを小さく折って宝物入れにしまった息子。

そう言えば小学生の頃、家族でゼンゴ釣りに行って、大きなボラを釣り上げたときはみんなで大喜びだったね。

そんな親子関係を築いてきた私たちだから、思春期も大丈夫だよ。思春期の君たちには、今の親の気持ちって、たぶん自分が大人になるまではわからないと思うけれど、きっと感謝してもらえる日が来ることを信じて、今の微妙な距離の親子関係を楽しもうか。ほめられる時は素直にほめるけれど、小言も張り切って言うからね。ご期待あれ！

(中一男子・中二女子の父)

